

資料① 「Ⅱ. 1. (3) 調査項目」に関して

表1 アンケートの調査項目及び回答方法の概要

共通調査項目	回答者属性	1.役職 2.教職経験年数 3.特担任験の有無 4.特別支援学校教員免許状の有無 5.特別支援学校での勤務経験の有無
	交流及び共同学習に対する考え	1.[通常の学級児童]交流及び共同学習の目的やねらいに関する重要度(4件法) 2.[特別支援学級児童]交流及び共同学習の目的やねらいに関する重要度(4件法) 3.実施上の教師の配慮事項に関する重要度(4件法) 4.特別支援学級児童の目的やねらい達成に、特に効果的と思う活動(複数選択) 5.実施上の課題や問題点(複数選択) 6.感じていること, 知りたいこと, 悩んでいること, 悩み等(自由記述)
役職別調査項目(自校の状況)	管理職	1.教職員間での, 交流及び共同学習の目的や内容等の共有(3件法) 2.交流及び共同学習推進のための, 手引きやガイドライン等の活用(3件法) 3.交流及び共同学習の機会の設定と教育課程への位置付け(3件法) 4.計画的・継続的に行うための, 指導計画の作成(3件法) 5.取り組みや成果等評価の実施(3件法)
	特担任	担当学級種別, 在籍児童の人数, 交流及び共同学習を行っている児童の人数(記入) ※ 児童の実施状況を, 自学級2名以内で回答 1.実施学年(記入) 2.実施教科(複数選択) 3.達成できている又は達成できそうな目的やねらい(複数選択) 4.実施上の教師の配慮(複数選択) 5.実施や目標決定にかかわる人(複数選択) 6.交流及び共同学習の評価に関わっている人(複数選択) 7.評価の方法(複数選択) 8.交流及び共同学習の個別の目標や個別の評価の観点の設定(2件法) 9.児童が主体的に学んだり, 学習を充実させたりするための支援や工夫(自由記述)
	交流担及び専科	1.担当学年, 在籍児童人数, 特別支援学級児童の学級種別(記入及び複数選択) 2.実施教科・領域(複数選択) 3.通常の児童にとっての成果(複数選択) 4.個別の教育支援計画や個別の指導計画の情報共有, 作成への関与(2件法) 5.対象の特別支援学級児童の目標の共通理解(特担任・児童本人) 6.実施上の教師の配慮(複数選択) 7.実施形態(記述含む4件法) 8.特別支援学級の学習に通常の学級児童が参加する形での実施(記述含む2件法) 9.児童が主体的に学んだり, 学習を充実させたりするための支援や工夫(自由記述)
	特支Co	1.発達障害を含む, 特別な支援を必要とする児童の情報共有の場の設定(3件法) 2.設問1の情報共有の場での, 全教職員参加(3件法) 3.個別の教育支援計画や個別の指導計画への目標や評価等の記載(3件法) 4.交流及び共同学習の様子について, 指導要録への記載(3件法) 5.学習参加への実感・達成感をもち, 充実した時間を過ごす場としての達成(3件法)

資料② アンケート調査結果

〔共通調査項目〕

「Ⅲ.2.(5) 交流及び共同学習の実施上の課題や問題点等(複数選択)に関して」

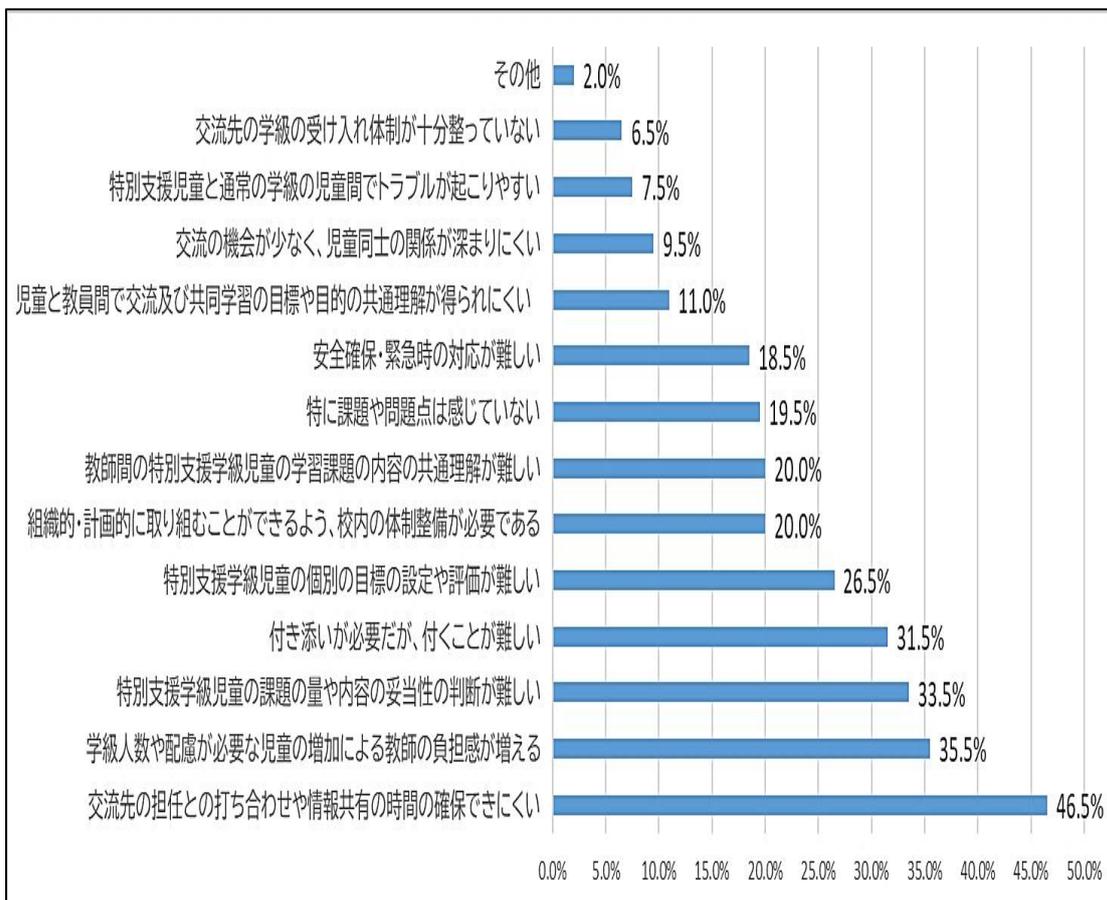


図2 交流及び共同学習実施の課題や問題点

表4 実施上の課題等に関して、その他と回答した人の記述内容<一部要約、抜粋>

＜兼＞特 支 Co・特 支担	担任児童が複数学年在籍している場合、交流先には支援員の先生が行き支援に当たってもらっているが、授業者との打ち合わせや支援員との情報共有の時間があまり取れず、事前の準備や支援が不十分な場合がある。また、支援員の先生が児童にどこまでさせたらよいか、悩みながら支援に当たっている。
専科	学級種別によっては、交流先の学級と同じ学習活動を設定するのが困難である。
特支担、 交流担	児童の実態や障害種によっては、交流及び共同学習や集団活動への参加が難しく、同学年との関わりが十分でない。(不登校、児童本人が行きたがらない等)

「Ⅲ. 2. (6) 交流及び共同学習について感じていること、知りたいこと、悩み等(自由記述)に関して」

表5 交流及び共同学習についての自由記述の内容<一部要約, 抜粋>

	項目	役職	内容
感じていること 6	交流及び共同学習の成果	管理職 交流担 専科	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交流等は, 受け入れる側の児童にとって, 教育的効果が高いので, 積極的に実施したい。</li> <li>・交流を通して, 周りの児童の成長を感じる。</li> <li>・児童の実態に合わせて交流することは, 交流先の児童にも, 特別支援学級の児童にも, 教師にも学びや気付きがあり, よいと思う。</li> <li>・(特別支援学級担任と)こまめに情報交換ができています。これからもつづけていきたい。</li> <li>・特別支援学級の児童も一人一人の個性として特性をとらえている。</li> </ul>
知りたいこと 5	実施状況や事例等の情報	特支担 交流担  <兼>特支Co・特支担	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交流一特支教室の間の学習内容等の連絡方法, 情報共有の仕方。</li> <li>・各教科での指導での, ワークシートの工夫(教材, 教具)など。個別の教育支援計画や, 目標等の共有とその実現に向けた具体的な話し合いの時間の確保の工夫。</li> <li>・事例の紹介。</li> <li>・評価(課程)について知りたい。</li> </ul>
悩んでいること 20	付き添いの難しさに関する課題	管理職 特支担 交流担  専科  <兼>特支Co・特支担 特支Co	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小規模校では, 教員の人数が少なく, 毎時間の個別の支援がむずかしい。</li> <li>・交流学級での学習時に支援に行くことができないことが多く, 児童が分からないまま授業が進んでいることがある。本人が交流学習に不安をもっている。</li> <li>・通常の学級の児童への対応が大変な中で, 支援学級の児童に声掛けをすることが難しいときがある。</li> <li>・どの学校でも, 実技教科や理科等での交流が多い現実がある。しかし, 技能面, 安全面等考えると, 実技教科こそ支援が必要だと感じるが多々ある。また, 交流学習において最も重要視すべきは, 人間関係づくりであると思う。(交流学級, 支援学級のどちらにとって)</li> <li>・特支担が交流の様子を見ることができず, 他の子どもとどうつながっていくかを見届けることができない。子どもだけでなく, 教師間の信頼関係づくりが大切だと思う。</li> <li>・支援員の増員が大きな願いである。情報共有の課題はあるが, まずは人手(教員)が増えればと常に願っている。</li> <li>・支援員がつくことによってできる活動もあるが, 付き添いができないこともある。</li> </ul>
	交流学級での所属感, 人間関係づくり	専科 <兼>特支Co・特支担	<ul style="list-style-type: none"> <li>・支援学級の子どもがクラスの一員として活動できるよう, つなぐのが教師の役割。</li> <li>・交流学級担任との意識のずれや打ち合わせ不足に悩んでいる。</li> <li>・通常の学級担任に, 特別支援学級の子もクラスの一員であるという気持ちを強くしてもらいたい。通常の学級担任の接し方が, 他の子どもたちが支援学級の子に接するお手本になる。</li> </ul>
	その他の課題	管理職 特支担 交流担  <兼>特支Co・特支担 特支Co	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全職員による定期的な研修が必要だが, 業務過多の現状では, 十分な時間を確保できずにいる。</li> <li>・児童の発達段階によって, 交流の設定が難しくなるように感じる。高学年になると通常学級の児童も日々の自分の生活に追われ, 支援学級児童とかかわる機会が大幅に減少してしまう。</li> <li>・通常の学級の児童で「学習障がい」のある子がその教科のみ支援学級で学習できるようになると救われると思うことがある。</li> <li>・学年が異なる児童が在籍しており, それぞれの学級の時間割を合わせるのが困難。</li> <li>・特別支援学級の児童は, 学年も異なり, もっている特性も異なっている。一人一人に応じた交流及び共同学習にすることに難しさを感じている。</li> </ul>

〔役職別調査項目〕

「Ⅲ.3.(2).7)及びⅢ.3.(3).5)児童の主体的な学びや学習を充実させるための支援や工夫(自由記述)に関して」

表7 児童が主体的に学んだり、学習を充実させたりするための支援や工夫<抜粋>

		○特支担	●<兼>特支Co・特支担	□交流担任	■専科
		主な記述			
情報交換・連携	各学級担任と3	○内容によって、事前学習が必要なことや学習支援の必要性などを交流先担任と打ち合わせをして準備する。 □事前に学習内容を伝えてもらったり、復習をしてもらったりしている。			
	教育支援員と2	○支援員と情報共有を行い、次時までに必要なことを確認し、学級でフォローする。交流学習の様子を把握するため、支援員との交換ノートを活用し、児童の良い面や苦手な面、支援員が困っていることなどを担任が把握し指導に生かす。			
	保護者と2	○校外学習は、保護者と念入りに打ち合わせをして、協力してもらっている。			
特別支援学級児童への支援・配慮	目標を持たせる3	○自分なりの目標をもたせる。 ■個別の目標を設定して、できたらシールやはんこを押す。			
	授業中の支援9	■ <b>ルールの簡易化</b> 、特別支援に限らず、だれでも”やさしい”授業を心がける。 ●C課程なので、通常と同じ評価基準(規準)で行っている。関係機関の連携シートを活用して合理的配慮も行うようにしている。 ○板書の際、ノートにうすく字を書く。 ○スモールステップでゆっくりと学べるように心がけている。 ○補助的に説明したり、具体物を操作して見せたりする。 ○個別にアドバイスを行う。 ○評価に用いる単元テストは個別で問題を読み上げや説明を行う。 □■活動の見通しをもたせるため、学習の流れを示す。 □資料を読む、ヒントカードを渡すなど、理解できるように支援する。			
	ICTの活用3	■□ICTの活用で興味・関心を持続。 □ICTを積極的に活用している。(電子黒板で映像や音声の再生等)			
	ペア・グループ活動6	□学び合い学習(グループ活動)を積極的に取り入れることで、児童同士が自分の考えを伝えたり、課題を解決したりする活動を取り入れることで、コミュニケーション(児童同士のかかわり)の充実に努めている。			
	事前・事後指導20	○学習内容や活動目標を事前に伝え、見通しをもって参加している。 ○学びたいもの、発表したいものを明確にし、意欲的に取り組めるようにする。 ○苦手科目のみ予習・復習を行っている。 ○予習や復習、練習が必要な場合は、繰り返し練習して自信をもたせる。 ○体育科、音楽科など、交流学習の内容で技能的なものがあれば、事前・事後に練習し、意欲をもたせたり、達成感・成就感をもたせたりする。 □全員発表の場面では、事前に特別支援学級の先生とこまめに打ち合わせをし、練習を行い、児童が自信をもって学習に取り組めるよう支援をしていった。 ●音楽のリコーダーや運動会のダンスなど、休み時間に主体的に練習できるように、CDの準備や場の設定を行っている。 ○外国語等で話す活動時は、事前に書いたものを読む練習をする。 ○グループ交流では、事前に考えをもたせてから話合いに参加させる。 ○持ち物を過不足なく準備しておく。 ●個別支援が必要な制作、作文などは、支援学級に戻って来てもよいことしておく。(事前に確認) ●学習後、特担が内容について質問し、わかりにくかったと思われることは個別で補充的な学習を行う。			
	個別の声掛け5	□個別に声を掛け、できることを伸ばす。また、褒める。 ■個別に課題に取り組めるようにしている。既習の内容も繰り返し学習することで少しずつ定着するようにしている。			

教師のかかわり	特別支援学級児童とのかかわり 14	<p>○●□■よいところを見つけてほめ, やる気を出させる。(学習態度, 友達とのかかわり等)</p> <p>□他の児童へ行っているものと同じ。(できたことを褒める, 授業の工夫等)</p> <p>□できることはなるべく手を貸さずに自分でする。コミュニケーションも児童同士でする。</p> <p>□子ども同士のつながりをいかに育むかが懸念事項である。進んで交流の児童とつながりを持ってないときは配慮を要する。</p> <p>○友達とのかかわり方を見守る。</p> <p>○障害に関する支援は行うが他のことに対しては口出しをしないようにすることで友達同士の交流を促している。</p> <p>□意図的指名, 発表の場の設定。</p>
	交流学級児童に対してのかかわり 2	<p>○特別支援学級担任が, 交流学級の児童と触れ合う時間をできるだけ多くとることで, 交流や共同学習がスムーズにできるようにしている。(会話, 遊び)</p> <p>○支援学級に招いたり, 交流学級で発信したりして, 双方向性持たせた活動を入れる。(例プログラミング, 生活科おもちゃづくり, 算数問題作り)</p>